

東洋史研究

一九五〇年九月六日第三種郵便物認可  
一九五一年七月二十五日印刷  
一九五一年八月一日発行  
（毎月一日一回発行）



史学・考古学・地理学

第 34 卷 第 4 号

- 近世銀山の領有機構……………小 葉 田 淳
- グプタ朝（西紀四一八世紀）  
印度社会の一考察……………佐 藤 圭 四 郎
- ドイツ帝国と文化闘争……………広 実 源 太 郎
- 気候馴化論の学史的背景……………和 田 俊 二

《 学 界 展 望 》 中国的封建社会への展望

書 評 ・ 彙 報

史 学 研 究 会

京都大學文學部東洋史研究室  
東洋史研究會

振替口座京都三三七八番

註

(1) M. Das Gupta, 'Sradha and Bhakti in Vedic Literature', p.322. (The Indian Historical Quarterly. Vol. V) 参照。

(2) M. Weber, a.a.O. S.67. 参照。

(3) A. Stein, Kalhanas Rajatarangini. Vol. II. p. 99, n. 1245-7 参照。

(4) Prof. Vogel, Antiquities of Chamba State. Part I. p. 122. (E. I., XIII. p. 117, n.4. 所引)。本書を見るを得なうのを遺憾とする。但この教授は、南印度の史料によつてこの結論を得られたようである。

執筆者紹介

小 葉 田 淳	京都大学文学部
広 実 源 太 郎	和歌山大学文学部
佐 藤 圭 四 郎	京都大学文学部
和 田 俊 二	滋賀大学経済学部
池 田 誠	京都大学文学部

nika などの政府の官吏によつて、又、王室に帰すべき bhāga 及び bhoga (地租) 'kara (貢賦) などの「村の貢納」は、村の成員にして、有力者であり、政府より任命せられた半官半民の村の吏員たる bhāgika (土地所有者) 及び bhogike (土地保有者) を通じて徴せられたことが知られる。即ち、之等の bhogika 又は bhāgika は、六一七世紀の Panjab の Vishnuvarman 文書で、

「bhogika' bhāika' karika (未詳) kulacharika-pra dhāna (支族の成員の長達) ' nāch' kutumbinas (家長達)」 E. I., XIII. p. 119, l. 3

とあるより知られるように、' kurumbinas (家長達) 、即ち村の内外に持分地をもつ氏族成員中より選ばれたものである。即ち、前掲の Mahārāja Brahmadatta の文書で、

「官吏の家長」(adhikarāna-kutumbinas E. I., XV. p. 136, l. 10. とあるもの) ' grāmika (村長) ' mahattara (村老) などと共に、「一般の家長」(prakṛiti-kutumbinas) E. I., XV. p. 136, l. 3. の内より選ばれた、村の有力者である。

次号予告(三四ノ五)

〔思想史特輯〕

ルソー

老荘の自由思想

明治の教育思想

〔史学史研究ノート〕

デイルタイ：歴史的理性批判

ウエーバー：世界宗教の経済倫理

トインビー：キリスト教と文化

その他

前川貞次郎

村上 嘉実

大石 良村

前田 一良

北村 敬直

加藤 一朗

前号目次(三四ノ三)

上代日本における栗馬の風習

奈良時代における浮浪について

チユルク族の始祖伝説について

〔史料解説〕最古のルースカヤ・プラーウダ

学界展望

その他

小林 行雄

直木孝次郎

岡崎 精郎

河村 盛一

編集後記

本年初頭我々の抱いた大きな抱負と会員諸賢の御期待とを無惨にも裏切つて、本誌の編集は難澁を極めた。わが国に劣らず戦禍を蒙つた管の西欧諸国から豪華にして精緻な學術書が届く度に、今更のように我々は、わが国における學問一般の背景の浅さと、出版界のシステムの矛盾を歎かすにはおられなかつた。

しかし幸にして虎穴を脱した本誌は、三号にひきつゞき本号を各位に送ることになつた。本号は慣例の文獻目録を次号に廻わして、小栗田・佐藤兩氏の論文に大胆に紙数を裂いたが、両篇共に後号にまで続く長篇であり、恐らく読者諸賢に強い力量感をもつて追つて来る大作で、本号の面目を保つて余りあ

るであらう。広実・和田兩氏の論文も、それぞれの専門分野において貢献するところ尠くないであらう。幸に曙光を見出した本誌ではあるが、この光は常に会員各位の精神的、物質的援助なくしては維持することが出来ない。各位の御声援を切望する。(水津)

一九五一年七月二五日 印刷 定價八〇円  
一九五一年八月一日 発行

史 林 (第三四卷、四号)

編 集 京都大学文学部内 史学研究会

代表者 織 田 武 雄

発行人 岸 本 貞 三 郎

印刷所 天 業 社 印 刷 所

大阪市東区南新町一ノ六

發行所 株式 会 社 教 育 タ イ ム 社

振替大阪七一九二〇番

一九五〇年九月六日第三種郵便物認可  
一九五一年八月一日發行  
(每月一日)

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

(MONTHLY)

---

Vol. XXXIV, NO. 4

AUG. 1951

---

### CONTENTS

- Studies in the Innai silver Mine (1)  
*Atsushi Ohada*
- A Study of social Structure under the  
Gupta Dynasty (VI-VIII Centuries)  
*Keishiro Sato*
- The German Empire and the  
Culture Struggle *Gentaro Hirozozane*
- The Background of the Acclimatization Theory  
—The Object of the Theory at the End of the  
XIX Century  
*Toshiji Wada*

---

Book Reviews

News from the Academic World

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI  
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

史  
林  
第  
三  
四  
卷  
第